

京都府における薬物乱用防止 対策について

京都府健康福祉部薬務課

薬物乱用の現状 1

上段:全国 下段:京都府	19	20	21	22
麻薬及び向精神薬取締法	542 7	601 5	429 9	375 7
あへん法	47 0	21 0	28 0	23 0
大麻取締法	2, 375 41	2, 867 55	3, 087 72	2, 367 56
覚せい剤取締法	12, 211 270	11, 231 204	11, 873 247	12, 200 283

薬物乱用の現状2(青少年層)

覚せい剤事犯

大麻事犯

上:全国 下:京都	20	21	22	上:全国 下:京都	20	21	22
総数	11, 231 270	11, 873 247	12, 200 278	総数	2, 867 55	3, 087 72	2, 367 56
うち未成年者 ()は中高生	255 (42) 5	258 (31) 10	228 (37) 7	うち未成年者 ()は中高生	234 (50) 4	214 (39) 9	164 (29) 8
未成年の比率	2. 3% 2. 5%	2. 2% 4. 0%	1. 9% 2. 5%	未成年の比率	8. 2% 7. 3%	6. 9% 12. 5%	6. 9% 14. 8%

関関同立、新入生アンケート
関関同立の私立4大学は21日、今春入学した新入生に実施した薬物に関する意識調査の結果を発表した。「大麻が手に入る」と答えた学生の割合は3分の2で、昨年の新入生の3分の1から倍増しており、薬物の誘惑が年々身近に迫っている実態を浮き彫りにした。

全国の大学で学生の大麻の不法所持が相次いだことを受け、実態把握のために昨年の新入生から始めたアンケートで、今年は全体の約77%の約2万人から回答があった。

「大麻手に入る」6割超
昨年から倍増 広がり深刻

大入の入手に関する質問では「少々苦労するが手に入る」が40・1%、「簡単に手に入る」は24・6%だった。また、「大麻の使用を直接見たことがあるか(テレビなどは除く)」という問いでは、20人に1人に当たる約4・8%が「ある」と答えた。

結果について、関西大広報課は「アンケートは新入生が対象なので、実質的には高校生にまで薬物使用の危険性が迫っていることを示している。高校とも協力した指導が必要だ」としている。(松尾浩道)

薬物乱用のない社会づくり きょうとふプラン

—京都府薬物乱用防止中期戦略—

〔取組①〕—未然防止対策—

◇ 啓発・教育活動の推進

目標1 薬物乱用の誘惑に負けない青少年の育成

目標2 薬物乱用を根絶する府民の規範意識の向上
(きょうと薬物乱用防止行動府民会議)

◇ 啓発・教育のための人材育成

目標3 普及啓発を推進するための人材育成、取組支援

◇ 未然防止対策

「薬物乱用防止行動府民会議」の設置

- 関係者や関係団体等が協力・協働して、薬物乱用防止に係る啓発活動等を実施するため、様々な団体を構成メンバーとして設置

■ 「薬物乱用防止情報センター」の設置

薬物乱用防止に係る啓発・教育活動を推進するための情報を一元的に収集・管理・発信するセンターを設置



◇未然防止対策

「大学での薬物乱用防止対策」の推進

- 大学の主体的・自主的な取組を進めるため、薬物乱用防止対策に取り組む学内組織の設置支援や大学関係者の薬物乱用防止指導員、大学学生ボランティアの育成を進める
- ①大学等関係者薬物乱用防止指導員委嘱
 - ②学生啓発リーダーの養成



◇未然防止対策

「薬物乱用防止啓発拠点」の設置

- 遊技場、映画館、スーパーマーケット、コンビニ等、有職・無職少年が集まる場所を拠点到に啓発等を行う。

薬物乱用のない社会づくり きょうとふプラン

—京都府薬物乱用防止中期戦略—

〔取組②〕—再乱用防止対策—

◇ 薬物乱用者等の治療、社会復帰の支援

目標4 薬物依存者及び家族支援のための取組の強化

目標5 薬物依存・中毒者の社会復帰支援を行い、薬物の再乱用を防止(再乱用防止教育の実施等)

薬物乱用のない社会づくり きょうとふプラン

—京都府薬物乱用防止中期戦略—

〔取組③〕—取締対策—

◇ 関係機関と連携した取締の強化

目標6 薬物の流通、乱用に係る取締の強化・徹底

目標7 薬物密輸阻止に向けた水際対策の徹底

薬物乱用のない社会づくり
きょうとふプラン
—京都府薬物乱用防止中期戦略—

〔取組④〕—薬事監視・指導対策—

◇ 薬事監視の強化

目標8 医薬品等の乱用防止に向けた監視・指導の徹底

ご静聴ありがとうございました



京都府健康福祉部 薬務課